

# 街路樹

## 教師力upの素の活用～社会～

★ 見方・考え方を養うために ★



## 支援室

～「障害者差別解消法」から～

8月6日(月)に、前文部科学省視学官の澤井陽介先生の「授業改善講座」の講義がありました。その中で、社会科の授業改善について、次のようなことをお話してくださいました。

子どもが「見方・考え方を働かせる」ためには問題解決的な学習の展開の工夫が必要である。

- ①「問い」の構成を工夫する。着目する、比較・関連付けする、選択・判断する等、目標の実現に向けて「問い」を構成する。
- ②資料提示を工夫する。「分布」「広がり」「経緯」「変化」「連携」「多様性」等の視点に着目するよう加工したり、提示の仕方を工夫したりする。
- ③対話的な学習活動を工夫する。子どもの中で「自分の見方・考え方」として鍛えられていくような学びを進める。

29年度、社会部会では「よい授業」のポイントとして

- ①児童生徒が主体的に活動(追究・探求)できる。
- ②教師が児童生徒の思考過程をよりよく整理しコーディネートする。
- ③具体物の提示やICTの活用により、児童生徒の興味・関心を持続させる

と考え、授業動画を整理しました。動画では「個に応じ課題追究できるような資料の準備」「実物の資料提示」「ICT活用」「課題追究の視点の設定」「教師のコーディネート」等、子どもが主体的に事象に関わり、対話的に学ぶための教師の取組をみることができます。「資料提示をどうするか」「対話的な学びとなるためにどうコーディネートするか」等、具体的な手がかりとなります。ぜひご活用ください。

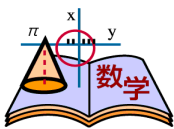
ご自分の学びのスタイルをご存じですか？  
まず、下の質問に答えてみてください。

- 【タイプA】  静かなところで勉強するのが好き  
 何回も書いて覚える方  
 文章をじっくり読んで理解する方  
 見直しはしっかりする方  
 ノートはしっかり書く方
- 【タイプB】  音声学習で効果的に覚えられる方  
 本より、講義を聞いた方が覚えられる  
 初対面、顔より話の内容を覚えている  
 メールより電話が好き  
 説明書より、人に教えてもらう方がよい
- 【タイプC】  体を動かしながらの方が覚えられる  
 音楽などを聞きながら勉強する方  
 音楽を聴くと自然に体が動く  
 自分でやってみないと気がすまない  
 説明書はよく読まず、まず使ってみる

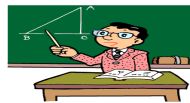
どのタイプの質問に多く当てはまりましたか？  
あくまでも参考ですが、【タイプA】は視覚型、【タイプB】は聴覚型、【タイプC】は体得型の学びのスタイルに分類されます。

(参考：福島県特別支援教育センターコーディネーターハンドブック)

発達障がい等がある児童生徒は、得手不得手の差が大きく、学びのスタイルが興味関心や理解に大きく影響します。そのような児童生徒が自分のスタイルでアプローチし、考えることができる授業づくりに取り組む必要があるのではないのでしょうか。



## 指導改善資料の活用(授業改善のヒントを見つける)



平成30年10月にいわき市学力向上支援連絡協議会より「全国学力・学習状況調査を受けての指導改善資料」(以下「資料」)が発行されました。今後、この資料を活用しながら、日常の学習指導の改善・充実を図っていく必要性について詳しく述べられています。

さて、算数・数学でのB問題(いわゆる活用問題)に課題が見られています。その一つに、「～を説明しなさい」という問題に対して苦手としている児童・生徒が多いことも明らかになっています。

数学Bの説明を記述させる問題においては、以下の3つの視点から出題されています。

- ①事柄・事実の説明【○○(前提)ならば△△(結論)】
- ②方法・手順の説明【○○(用いるもの)を使って△△する(用い方)】
- ③理由の説明【○○(根拠)であるから、△△(成り立つ事柄)である)】

○○だけでは正答にならず、○○と△△両方を記述することが必要になります。

例えば、数学Bのダイアグラムを扱う問題の解答で、「グラフの6kmの時を見る」など「y」を用いない記述が多く見られました。授業で、子どもが「6kmのところ」と発言した際に、教師が「y=6km」と言い換えてしまうと、子どもたちに説明する力は付かないのかもしれないかもしれません。教師が子どもたちの説明の中から不明確な点を見取り、答えを言わず、全体での話し合いで気付かせていくコーディネート力も必要です。数学以外にも大切な点であると考えられます。さらに、苦手意識を減らしていくためにも日々の授業の中で「説明する場面」の設定や「説明したくなる課題」の提示が大切とも資料に書かれています。

「資料」から指導法の多くのヒントを見つけ、明日からの授業改善につなげていきましょう。

